

平成２８年度 第２回 熊野大花火大会交通円滑化協議会 ポイント

項 目			H 2 8 年の状況・評価	H 2 9 年に向けた改善（案）
観客数			・ 約 14 万人（当日の午後には、三重県中南部・奈良県・和歌山県などで降雨が観測）	－
交通 状況	行き(国道 4 2 号下り (和歌山方面))	交通量	・ 交通量は H26 年と比較し、21％増加。※H25 年の交通量調査開始以来、過去最大を記録。	－
			・ ナンバープレート車籍地調査から、三重県以外に愛知県や関東方面からの来場が増加。	－
			・ ピークが 7 時台から 12 時台にずれるとともに、午後からも交通量が増加。	－
		所要時間	・ 尾鷲南 IC～熊野大泊 IC 間の国道 42 号を通行した乗用車は最大約 100 分。	－
			・ 熊野尾鷲道路を通行したバス等は約 20 分で定時性が確保。	－
	渋滞長	・ 紀勢自動車道 尾鷲北 IC で最大約 4 km の渋滞が発生するが、信号調整により 13 時に解消。	・ 紀勢自動車道 尾鷲北 IC（坂場・坂場西交差点）の更なる信号現示調整を検討。	
・ 国道 42 号で最大約 9 km（14～15 時台）の渋滞が発生するが、H26 年と比較し、交通量が 21％増加したにも関わらず、1. 2km の増加に留まった。		－		
	帰り(国道 4 2 号上り (名古屋方面))	渋滞長	・ 国道 42 号花火大会会場を起点に最大約 5 km（0 時台）の渋滞が発生し、深夜 2 時台まで継続。 ※H25 年の渋滞長調査開始以来過去最大を記録。	・ 翌朝までの休憩所の開放、テントサイト駐車場（事前予約制）の設置を検討。 ・ 花火大会終了後の国道 42 号の交通規制時間の短縮を検討。 ・ 花火大会終了後の会場周辺の交通規制方法等についての見直しを検討。
			・ 尾鷲南 IC 入口交差点を先頭に、熊野尾鷲道路で最大約 8 km の渋滞が発生し、0 時台まで継続。	・ 尾鷲南 I C 入口交差点の信号制御を調整し、利用交通量割合に応じた青時間の配分を検討。
効果が認められた対策				
途中 IC 閉鎖方法の改善			・ 地域の利便性・通勤・物流面等に更に配慮し、上り（名古屋方面）の途中 IC の交通規制を行わないこととしたが、本線上での U ターン車両等は発生せず、安全に運用。	・ 交通実態を勘案し、下り（和歌山方面）の途中 IC オフランプを利用可能とする運用を検討。
通行対象車両の拡大			・ バス以外に新たに「タクシー」「身体障がい者乗車車両」まで拡大し、タクシー 4 台・身体障がい者乗車車両 35 台が通行。	・ 新たな需要の掘り起こしや利用拡大を図るため、タクシー利用の更なる周知を行う。
早めの来場者に対するインセンティブの付与 （クーポン券の配布）			・ 物産展の出店数・売り上げとも H25 年以降で最大を記録。	－
ツアーバスの駐車場到着時間の幅の設定			・ 駐車場到着要請時刻を 12 時から 14 時までにしたところ、来場が 2 時間程度遅くなり、利用環境が向上。	－
ツアーバス進入経路の変更			・ 進入経路を立石南交差点に変更したが、渋滞も発生することなく、又、歩行者との接触の危険性も少なく安全に運行。	－
荷捌きスペースの設置と時間・ルールの徹底			・ 荷さばきスペースを拡大して設置することにより、活用率は上昇。	－
シャトルバス降車場所の見直し			・ 熊野警察署前交差点での左折車両の通行阻害は解消され、県道 34 号の渋滞が緩和。	－
井戸町交差点の信号現示の見直し			・ 国道 42 号下り（和歌山方面）の青時間を多く配分することにより、H26 年と比較し、最大で約 1. 5 倍の車両が通行。	－
P A ・道の駅等における情報発信の充実			・ 紀北 PA では準備した 500 枚すべてを配布。	－
大会プログラム(交通規制図)の更なる改善			・ 観光案内地図は花火大会前の過ごし方の参考になると回答した方が 72%であり、情報提供手段としては一定の効果。	・ 記載情報量、規制種別・時間の整理を検討。
休憩所・イベント・物販			・ 休憩所の満足度は「満足・やや満足」が全体の約 50％を占める。	－
課題が残る対策				
通行対象車両の拡大			・ 障がい者の範囲に関して、要望が数件寄せられた。	・ 公平性の観点から、対象車両を知的・精神障害者を含む障害者全体に拡大することを検討。
早めの来場者に対するインセンティブの付与 （クーポン券の配布）			・ 利用率は 45%であった。	（早めの広報やイベントの充実を検討）
ツアーバス利用促進サイト			・ 新たにバスサイトを開設することにより、多くのアクセスがあったものの、明確なバス利用増加には繋がらなかった。今後は、ターゲットを絞った PR や更なる利便性の向上が課題。	・ バス会社との連携等について今後調整。
ツアーバスの方面別駐車			・ 鬼ヶ城センター駐車場で名古屋方面と和歌山方面の車両が混在。	・ 駐車場からの出発可能時刻等のメリットを早めにツアーバス会社等に周知。 ・ ツアーバス利用者の行きの降車場所として、熊野市駅付近に停留所を設置し、名古屋方面から来場するツアーバスの鬼ヶ城センター・大泊駐車場の利用を促進。
荷捌きスペースの設置と時間・ルールの徹底			・ 強引な駐停車が見られ、運用面で課題。	・ 露天商の違法な駐停車等を防止するため取締りやパトロールを強化。 ・ 運用ルールの徹底と荷さばきスペースの更なる明確化を実施。 ・ 花火大会終了後は、国道 42 号下り（和歌山方面）側を駐停車スペースとして明確化することを検討。
P A ・道の駅等における情報発信の充実			・ 臨時駐車場での入手割合が最も多く、来場前の入手は依然として課題。	（検討中）
休憩所・イベント・物販			・ 自由回答では休憩所に対する意見・要望が一番多く、今後の課題。	新たな休憩所の設置や既存休憩所スペースの増設を検討。

今後取り組むべき方向性

- PDCAサイクルによる取組により、「行き」の交通円滑化については一定の成果が実現。
- 今後は、「より快適に、気持ちよく帰っていただく」ための、「帰り」の交通に着目。